

消化器センター 内科部門（消化器・肝臓内科）

1. スタッフ

科 長（教 授）	菅野健太郎
副 科 長（准教授）	玉田 喜一
外来医長（講 師）	和田 伸一
病棟医長（講 師）	大澤 博之
医 員（教 授）	山本 博徳 (富士フィルム国際光学医療講座兼務)
医 員（准教授）	長嶺 伸彦 (救命救急センター兼務)
医 員（准教授）	佐藤 貴一 (内視鏡部兼務)
医 員（准教授）	磯田 憲夫
医 員（准教授）	武藤 弘行
医 員（講 師）	大橋 明
医 員（講 師）	砂田圭二郎 (富士フィルム国際光学医療講座兼務)
医 員（講 師）	東澤 俊彦 (地域医療学センター兼務)
医 員（助 教）	矢野 智則 (内視鏡部兼務)
病院講師	畑中 恒
病院講師	宮田 知彦
病院助教	平澤 知介 (健診センター兼務)
病院助教	阿治部弘成
病院助教	吉澤 充代 (健診センター兼務)
病院助教	西村 直之 (救命救急センター兼務)
病院助教	佐藤 博之
病院助教	牛尾 純
病院助教	三浦 義正
病院助教	坂本 博次
シニアレジデント	8名

2. 診療科の特徴

上部および下部消化管腫瘍の早期診断および特殊分光観察を用いた進展度診断から内視鏡治療への連携、慢性肝炎のインターフェロン治療や肝臓癌早期発見から腹腔鏡下治療、胆膵系腫瘍の進展度診断や内視鏡的ドレナージなど基本的診断・治療から最先端の内視鏡治療まで行っている。さらにダブルバルーン小腸鏡による診断・治療のメッカとして県内外から数多く紹介受診している。また上下部消化管出血や総胆管結石など県内一円および筑西地域などの県外から救急搬送症例の内視鏡治療に24時間対応している。一方、大学拠点病院への医師派遣を行い、地域医療連携に努めている。

外来診察は若手医師が初診を担当し、患者の症状や病態に応じた検査を組み、再診は専門性に応じて各臓器グループの専門医が対応している。初診患者においても緊急度や重篤度に応じて上級医が指示を行い、必要に応じ

て緊急検査や緊急入院を行っており、対応の遅れがないように心掛けている。

入院診療は、研修医1名に対して上級医2名以上が付く診療チームで対応している。予定入院は、検査・治療日時を決めた上での期日指定入院を原則とし、入院後のスムーズな診療に心掛けている。一週間の入院患者数は平均35名前後、その4割強は緊急入院患者であり、クリティカルパスの有効利用などにより入院期間の短縮に努めている。

・認定施設

日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設

日本肝臓学会認定施設

・認定医

日本内科学会	指導医	菅野健太郎	他9名
同	認定内科専門医	砂田圭二郎	他3名
同	認定内科医	菅野健太郎	他25名
日本消化器病学会	指導医	菅野健太郎	他10名
同	専門医	菅野健太郎	他19名
日本消化器内視鏡学会	指導医	菅野健太郎	他13名
同	専門医	菅野健太郎	他19名
日本肝臓学会	指導医	磯田 憲夫	他2名
同	専門医	磯田 憲夫	他3名
日本超音波医学会	指導医	玉田 喜一	他3名
同	専門医	玉田 喜一	他5名

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数：2,950人
 再来患者数：33,632人
 紹介率：55.0%

2) 入院患者数（病名別）

新入院患者数：1,808人

肝疾患	入院数	上部消化管疾患	入院数
肝細胞癌	477	胃食道静脈瘤	124
慢性肝炎	135	食道癌	30
肝硬変	32	その他の食道疾患	21
(肝細胞癌非合併例)		胃がん	148
自己免疫性肝炎	29	胃潰瘍	67
その他の肝炎・肝障害	15	その他の胃腫瘍性疾患	20
急性肝炎	5	十二指腸潰瘍	4
劇症肝炎	3		

肝不全	29	十二指腸腫瘍性病変	25
肝のう胞	4	上部消化管出血	14
肝膿瘍	2	その他の上部消化管病変	10
その他の肝腫瘍性病変	10		
胆道・膵臓疾患	入院数	小腸・下部消化管疾患	入院数
胆嚢・総胆管結石	95	イレウス	16
急性胆管炎	24	小腸出血	20
総胆管癌	16	小腸腫瘍	32
肝門部胆管癌	9	小腸狭窄	10
膵胆管合流異常症	1	ポイツーイエガース症候群	3
急性胆嚢炎	3	大腸癌	40
胆嚢癌	10	大腸腺腫	41
膵癌	31	クローン病	88
IPMN	25	潰瘍性大腸炎	19
その他の膵腫瘍性病変	7	虚血性腸炎	10
急性膵炎	25	感染性腸炎	3
(うち重症急性膵炎)	2	直腸カルチノイド	5
慢性膵炎	6	大腸憩室出血	22
		大腸憩室炎	4

3) 転科・死亡症例病名別件数

転科症例	症例数	死亡症例	症例数
胆嚢・総胆管結石・胆嚢炎	8	胃癌	2
胆嚢・胆管癌	5	食道・胃静脈瘤破裂	5
膵癌	3	肝癌	6
食道癌・胃癌	4	肝不全	4
十二指腸腫瘍・小腸腫瘍	3	膵癌	2
大腸癌	2	その他	5
胃・食道静脈瘤	2		
消化管穿孔	4		
イレウス	3		
虫垂炎	3		
クローン病	2		
卵巣癌	1		

4) 主な検査、処置、治療件数

(いずれも内科施行分のみ)

A) 消化管関係

上部消化管内視鏡検査	5,849件
・食道静脈瘤結紮術／硬化療法	151件
・粘膜切除術、粘膜切開剥離法	154件
内視鏡的超音波検査（含む細径プローベ）	
食道、胃	280件
静脈瘤精査	67件
大腸内視鏡検査	2,614件

・ポリペクトミー	632件
・粘膜切除術、粘膜切開剥離法	75件
小腸内視鏡（double-balloonmethod）	361件
小腸内視鏡下の処置、治療	158件

B) 胆道・膵臓

ERCP	349件
ERCP下の処置および治療	
・経鼻胆道ドレナージ	127件
・経乳頭的胆道ステント留置術	110件
・乳頭拡張術	59件
・乳頭切開術	15件
・碎石術	85件
・膵胆管内超音波検査	34件
内視鏡的超音波検査（胆膵）	93件
経皮経肝胆道ドレナージ	7件

C) 肝臓

腹腔鏡的肝癌治療	73件
慢性肝炎インターフェロン治療導入	35件

D) その他

腹部超音波検査（外来患者のみ）	4,388件
-----------------	--------

5) クリニカルインディケーター

(1) 治療成績

- ・上部消化管ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）
 - 一括切除率 96.8%（149/154病変）
- ・下部消化管ESD
 - 一括切除率 93.3%（70/75病変）
 - （腫瘍サイズ平均、長径32.2mm）
- ・肝細胞癌に対する腹腔鏡的治療（ラジオ波、マイクロ波含む）
 - 1999～2009年、542症例、局所再発率5.4%
- ・食道静脈瘤治療（EVL）
 - 68症例（完遂48症例、総治療回数151回）、再発率21.6%
- ・インターフェロン治療のSVR率（ウイルス排除率）
 - 2009年までに導入の340例のSVR率：47.5%
- ・総胆管結石 完全截石率 93.7%（59/63）
 - ※完全截石とは、一回の入院中に截石が完了した患者。

(2) 合併症

上部消化管ESD	
出血	1.3%（2/154）
穿孔	1.9%（3/154）
下部消化管ESD	
出血率	1.3%（1/72）
穿孔率	0%（0/72）
ERCP後膵炎発生率	4.9%（17/349）うち重症2件（0.6%）

- (3) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率
(別添の消内入院集計ファイル参照)

6) カンファランス

(1) 診療科内

- 上部消化管カンファ (毎週月曜日)
下部消化管カンファ (毎週月曜日)
胆膵カンファ (毎週木曜日)
肝カンファ (毎週木曜日)
リサーチカンファ (月1回)

(2) 他科との合同

- (内科・外科) カンファランス
肝臓グループ (月1回)
胆・膵グループ (月1回)
下部グループ (月4回)

4. 事業計画・来年の目標等

- ・高度先進医療の積極的申請